

口癖(くちぐせ)

「もったいない」母親の口癖です。

子どものころよく、言われました。

「お茶碗にご飯粒まだある」、「ひっついてとれやん」、「お茶入れて食べなさい」

また、嫌いなものを残すと、「なんで残すの」、「おいしくない」、「なんでも食べるの、命あるものをいただいているの

大切に、もったいないことをしてはだめです」なんて会話を小学生の時にたくさん母親としました。

そのおかげかどうかはわかりませんが、何でも食べれるようになり、健康に育ち、今まで大きな病気もせずに生活できています。ありがたいなと感じています。

2004年にノーベル平和賞を受賞したケニア人のワンガリ・マータイさんが2005年に日本に来日しました。その時、

Reduce(ゴミ削減)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)という環境活動の3Rをたった一言で表せるだけで

なく、かけがえのない地球資源に対するRespect(尊敬の念)が込められている言葉、「もったいない」を知りました。

マータイさんはこの美しい日本語を環境を守る世界共通語「MOTTAINAI」として広めることを提唱しました。

今、世界の中で飢餓(長期間にわたり食べられず栄養不足となり、生存と生活が困難になっている状態)で命を落

とす人が1分間に17人、そのうち子どもが12人だという報告があります。その反面、食品ロス(本来食べられるのに

廃棄される食品)が日本では1年間で643万トン、この数字は10kgのお米が6億4千3百万袋というものすごい数字になります。

「MOTTAINAI」を世界共通語として広めてくれたのに、飢餓、食品ロスの数はいつも考えさせられます。

母親は88歳になった今も「もったいない」をよく言います。言うだけでなく、食事もロスを出さないように生活していま

す。怒るかわかりませんが、地球環境などと大きなことは考えていないと思います。でも、粗末にしてしまうことは許されず、もったいないと思うのでしょうか。

私も、この文章を書くことで、改めて小さいときから言われてきた、「もったいない」を考えて、自分ができることを少

しでも実行していきます。

